

## 1 単元名 身近な地域の調査 ―身近な地域を見直そう―

## 2 単元について

## (1) 単元観

本単元は、学習指導要領の地理的分野に位置づけられ、目標と内容については以下の通りである。

## 【1 目標(4)】

地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。

## 【2 内容(2)日本の様々な地域 エ 身近な地域の調査】

身近な地域における諸事情を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めて地域の課題を見だし、地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を養うとともに、市町村規模の地域の調査を行う際の支店や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる。

本単元は、市町村規模の地域的特色について考察し、適切に表現できることを目標としている。生徒に身近な地域に関することについての調査方法、また発表の仕方についての基礎を身につけさせていくことが求められる。現在、生徒が生活をしている八街市を取り扱うことにより、地域への興味・関心を高めるとともに地理的な見方や考え方の基礎を育てることも大きなねらいである。

地域の地理的特色を理解するために、地形図の読み取りを活用する。身近な八街市の地形図を読み解くことにより、自分たちが知っている地理的要素と地図情報とを見比べて、読図の基礎基本を確認したり、八街市の地理的特色について改めて理解を深めたりすることができる。現在の地形図と過去の地形図の比較を行い、八街市の時代ごとの土地利用について考察し、思考力を養わせる。

身近な地域の地理的事象を観察・調査することを通し、身近な地域に対する理解と関心を深め、地域社会の形成に参画して、その発展に寄与しようとする態度を育てることを主なねらいとしている。

学習内容として、野外調査の手順や課題づくり、調査結果のまとめやその発表方法がある。生徒は身近な地域への野外調査の手順を知り、自ら課題を設定して考察し、調べたことをまとめていく。そして、どのように発表すれば聞き手に自らの意見が上手く伝わるかを熟考することを通して、社会的な技能を活用して得た知識を表現するという、学んだことを社会に還元する力を身に付けられる。その中で八街市が抱える地域的諸問題に着目し、その解決方法を考えることで、郷土愛や郷土へ貢献しようとする態度を育むことが可能である。

小学校との関連では、第3学年で地域・市町村の学習、第4学年で千葉県での学習をしている。そのため地図記号の基礎や地形図の読み取り、八街市の歴史について触れている。本単元では小学校で学習した地理的事象と歴史的事象の知識の活用を積極的に行っていきたい。

## (2) 指導観

本単元の指導にあたっては、地理的分野への関心をさらに高めていく、生徒が抱く表現力への苦手意識を克服していく必要があると感じている。そのため、関心を高めることに関しては導入での工夫を図りたい。身近な地域である八街市に関する意外とも言える事実、すなわち大正時代から昭和初期にかけて八街市の朝日方面から成田方面へと軽便鉄道が広がり、陸軍の飛行場が存在していた事実を地形図を通して知ることから、関心を高めていきたい。なお、下総台地に広がる八街市の地形図を読み取ると、等高線が少ないことを見れば平坦であることが分かり、そのような土地利用に至ったことにつなげていきたい。表現力の向上に関しては、発表の方法を学び、地道に授業で経験を積み重ねて

いくことを行っていきたい。発表の方法を学ぶ機会としてはゲストティーチャーを活用したい。他の職員が生徒の前でプレゼンを行い、その発表の手法を生徒は肌で感じ取り、自分の発表方法と照らし合わせて反省を繰り返し、改善を図っていくものである。昨年度から今年度にかけて、自分の意見をまとめとして書かせる活動を積極的に行ってきた。例として「松平定信と田沼意次のどちらを評価するか」という学習課題に対し、資料を参考に自らの意見をまとめ、級友と意見交換を行う授業などを行ってきた。本学級の生徒も自分の意見を文章に起こし、まとめ上げる活動に慣れてはいる。これからは発表する力、すなわち表現力の向上に焦点を当てて、本単元が良いきっかけとなるよう指導に臨みたい。

また郷土愛を育むことも大きな課題である。生徒は八街市に対して、あまり良いイメージはなく、八街市が好きでないという認識が強い。八街市の将来を担う生徒達が郷土愛を持ち、八街市のために貢献する態度を養うためにも、地域を扱う単元は非常に重要であると言える。八街市が持つ良さを再認識するだけでなく、八街市が抱える諸問題と向き合い、どのように解決をしていくかを考えることが、真に地域に思いを馳せることにつながると考える。

その八街市の問題とは、これから激化していく人口減少である。2005年の総人口が75,735人をピークとして、2040年には総人口が52,500人へと減少し、年少人口に至っては1995年の13,250人をピークとして、2040年には4,000人を下回る予想となっている。

この事態を把握した上で、八街市がどのようにして人を集め、活気ある街にするかを話し合う活動が、八街市が持つ良さを再発見し、土地活用を考え、八街市が改善すべきことを考えることにつながる。本校は4人組を中心とした「学びあい」を推進しており、グループ活動を通して難しい課題に皆で取り組むことに力を入れている。多様な意見が飛び交い、生徒の考えが深化する活動を通して、八街市の将来に目を向けさせ、郷土への思いを培わせたい。

### 3 単元の目標

- ・身近な地域の特色や課題に関心を持ち、より良い地域の情報を収集し、調査しようとする。  
(社会的事象に対する関心・意欲・態度)
- ・調査テーマについて地域の自然環境や他地域との結びつき、人々の営みとの関わりから多面的・多角的に考察できる。  
(社会的な思考・判断・表現)
- ・調査の動機と目的、調査方法と経過、調査結果と分析などを地図や図表を用いて分かりやすくまとめ、発表できる。  
(資料活用の技能)
- ・読図、野外観察、聞き取り調査、文献調査などの地域調査の方法やまとめ方を理解し、その知識を身に付けることができる。  
(社会的事象についての知識・理解)

### 4 指導計画(8時間扱い)

学習過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準
見出す	1 / 8	1 地形図の読み取り方① ○土地利用などが正確に表されている地形図に触れ、その読み取り方を理解する。 ○等高線に着目し、その場所の地形や起伏、土地利用の読み取り方を身に付ける。	●地形図の種類や縮尺、方位、等高線、地図記号の基本的な読み取り方を理解している。(知識・理解) ●断面図を描き、高低差による地形の特色や土地利用などについて説明している。(思考・判断・表現)
見出す	2 / 8	2 地形図の読み取り方② ○地形図の情報を基に、その地域の地形や起伏、土地利用の読み取り、新旧地形図を比較して変	●土地利用について読み取るなどして地域の特色を、また、新旧地形図を比較して地域の変化を、それぞれ適切に読み取っている。(技能)

		化の様子に気づく。	
見出す	3 / 8 本時	3 身近な地域を見直そう 身近な地域の情報を集めよう ○高い場所から地域を眺めたり、 通学路周辺を歩いたりして、身 近な地域で見られる様々な地理 的事象に関心を持つ。 ○縮尺の大きな地図や景観写真・ 空中写真から、身近な地域の特 色や変化の様子に気づく。	●身近な地域の地理的事象や調査への 関心が高まり、積極的に情報を集めよ うとしている。(関心・意欲・態度) ●地形図や諸資料を適切に読み取り、問 題解決につなごうとしている。(技能) ●地域が抱える問題点について考察し、 その解決方法を見出そうとしている。 (思考・判断・表現)
見出す	4 / 8	4 テーマを決めて調査計画を立てよう 調査するテーマを話し合おう 仮説を立ててみよう 調査計画を立てよう ○友達と話し合っ、身近な地域 の特色や課題を見出すために適 切な調査テーマを設定する。 ○友達の意見を出し合いながら、 調査結果の見通しや適切な調査 計画を立てる。	●調査テーマを設定する活動に意欲的 に取り組んでいる。(関心・意欲・態度) ●身近な地域で見られる地理的事象を基 にして、適切な調査テーマを設定し、 仮説を立て、調査結果の見通しや調査 計画を立てている。(思考・判断・表現)
調べる	5 / 8	5 さまざまな調査方法① 野外 観察や聞き取り調査をしよう 野外観察をしよう 聞き取り調査をしよう ○野外観察や聞き取り調査を通し て、地域調査の基礎を身に付け るとともに地域の特色や課題を 見出す。	●ルートマップや聞き取り調査票の事 前準備、調査中のスケッチやメモなど 地域調査の方法を身につけている。(技 能) ●野外観察や聞き取り調査から、地域 の特色や課題を見いだしている。(思考 ・判断・表現)
深める	6 / 8	6 さまざまな調査方法② 資料 を調べて調査を深めよう (p. 274~277) 資料を調べて深めよう ○文献、統計、地図、写真などの 資料を調べて、調査テーマを深 く追求し、地域の変化の様子や 課題を捉える。	●野外調査で調べたことを踏まえ、さま ざまな資料を収集し、適切に選択し て調査テーマを追究している。(思考 ・判断・表現、技能)
まとめあげる	7 / 8	7 調査結果をまとめ、地域を見 直そう (p. 278~279) 分かったことをまとめてみよう ○調査結果を仮説と照らし合わせ て、仮説が正しかったかどうか 検証する。 ○調査結果を整理・考察して調査 テーマに対する結論を地図や図 表などにまとめる。	●調査結果を検証し、考察したことを整 理して、地図や図表などに適切にま とめている。(思考・判断・表現、技 能) ●身近な地域の特色や課題を、地域の自 然環境や他地域との結び付き、人々 の営みとの関わりから理解し、それ らの知識を身につけている。(知識・ 理解)

まとめあげる	8 / 8	<p>8 発表会をして地域の将来像を考えよう (p. 280~281)</p> <p>分かりやすい発表をしよう</p> <p>発表会で学び合おう</p> <p>○調査の動機と目的, 調査方法と経過, 調査結果と分析などを分かりやすくまとめ, 発表する。</p> <p>○ほかのグループの発表も参考にして, 身近な地域の特色や課題を捉え, より良い地域の将来像を考える。</p>	<p>●自分たちのグループが設定した調査テーマについて, その調査結果や考察した内容を分かりやすくまとめている。(技能)</p> <p>●ほかのグループの発表を聞いたり, 意見交換をしたりすることで, 身近な地域の特色や課題, 地域のこれからの発展について考えようとしている。(関心・意欲・態度)</p>
--------	-------	--	--

## 5 本時の指導

### (1) 目標

- ・身近な地域の地理的事象や調査への関心が高まり, 積極的に情報を集めようとする。(関心・意欲・態度)
- ・地形図や諸資料を適切に読み取り, 問題解決につなごうとする。(資料活用の技能)
- ・地域が抱える問題点について考察し, その解決方法を見出そうとする。(思考・判断・表現)

### (2) 展開

時配	学習内容と活動	指導・支援 ○評価	資料
5	<p><b>【見出す】</b></p> <p>1 ゲストティーチャーから八街市の人口の推移, 将来の予想, 八街市の良さ・不便さなどの情報を集めたプレゼンを聞き, 八街の将来を考える。</p>	<p>・TTの活用, ゲストティーチャーという立場で授業支援をし, プレゼンの仕方, 方法について学ばせる。</p> <p>○身近な地域の地理的事象や調査への関心が高まり, 積極的に情報を集めようとする。(関心・意欲・態度)</p>	PC
10	<p>2 昭和初期の八街市の2つのマーキングされた地形図から, 何が存在したのかをグループで予想する。 軽便鉄道 飛行場</p>	<p>・PCを活用し, 地形図のどの部分に注目するかを支援する。</p> <p>○地形図や諸資料を適切に読み取り, 問題解決につなごうとする。(技能)</p>	PC 地形図 写真
18	<p><b>【調べる】</b></p> <p>3 現在の八街市の地形図から今後, どのような街づくりが必要かをグループで意見を付箋に書き, 項目ごとにまとめて, プレゼンの</p>	<p>・八街市の将来を地形図からどのような街づくりをし, 修正, 土地利用が必要なのかを考えさせる。</p> <p>・付箋に書いた意見を項目にまとめ</p>	ワークシート

八街市に人が集まり, 活気づくためにはどのような街づくり, 土地利用が必要なのだろうか?

	準備をする。	させ、系統化させて問題解決にあたるよう指導する。 ・先ほどのゲストティーチャーの発表の仕方を参考にさせる。 ○地域が抱える問題点について考察し、その解決方法を見出そうとする。(関心・意欲・態度)	
1 2	【深める】 4 グループごとに発表し、ホワイトボードを掲示する。他の班の意見を聴く。	・自信を持って堂々に行わせる。 ・聴く姿勢に留意させる。	ホワイトボード
5	【まとめあげる】 5 本時の振り返りをする。	・本時の取り組みや感想を書かせ、振り返りを行う。	ワークシート

(3) 板書計画

—身近な地域を見直そう—			
八街市に人が集まり、活気づくためにはどのような街づくり、土地活用が必要なのか？		1 班	2 班
昭和11年の八街市の地形図	現在の八街市の地形図	3 班	4 班
八街市の人口推移	八街市の良さ・不便さを示した資料	5 班	6 班
		7 班	8 班